ありがとうを届けたい

第9回
かながわ感動介護大賞
作 品 集

かながわ感動介護大賞実行委員会

はじめに

今年度で9回目を数える「かながわ感動介護大賞」

今年も、高齢者の方やご家族、介護職員の方々から、たくさんのエピソードを寄せていただきました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、選考及び表彰が中止となりました。介護職員の皆さんは、新型コロナウイルス感染症で不安がある中、介護を受ける方や家族に寄り添い、一生懸命業務にあたっていただいたと感じております。

今回の応募作品は、コロナ禍における事業所への感謝の気持ちが綴られたエピソードが多くみられました。エピソードを目にする介護職員の皆さんは、日頃の頑張りを見ていてくださる方々の存在に、きっと勇気づけられることと思います。

さて、感動的な介護の場面とはどういうことなのでしょうか。

介護を受ける立場では、ご本人の期待どおり、いや、期待以上の支援を受けることができた場面、介護をする支援者の立場であれば、予想をこえて喜んでいただけた介護ができた場面、そして、家族、周囲にいた人たちにとっては、支援をする人と介護を受ける人の間で繰りひろげられた光景に、幸せを感じた場面、そのようなことだと思われます。

幸せをみんなで共有できた場面、心と心の交流が繰りひろげられた場面、それが感動介護であり、この作品集ではそれぞれのエピソードを通じて、皆さんと共に幸せをいくつも共有できることでしょう。

この作品集には、介護現場の様々な場面を通じた仕事の醍醐味が満載です。作品を通して、人としてのやさしさに触れていることを想像していただければ大変嬉しく思います。

介護に対するイメージが変わり、皆さんと共に幸せを共有できる「介護文化」が一層定着できることを期待しています。

かながわ感動介護大賞　実行委員長　篠原正治

かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
一般社団法人かながわ高齢者住まい連絡協議会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県

かながわ感動介護大賞 表彰選考会委員名簿（○…座長）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会　理事……雨宮　徹
公益社団法人神奈川県介護福祉士会　会長……コッシュ石井 美千代
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会　副理事長……小薮 基司
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 ……石島 美紀
神奈川県立保健福祉大学　准教授……○大島 憲子
東海大学　准教授……御領 奈美
田園調布学園大学　准教授……増田 いづみ

作品目次

最優秀賞　「コロナ禍の中の母との別れ」…… 1
「みんなの笑顔にありがとう」…… 3
優 秀 賞　「デイサービスに、行きたい」…… 5
「オムツ替え～ 開眼」…… 7
「笑顔でおはよう 笑顔でさよなら」…… 9
「あっぱれ、とよさん」…… 11
「いつも通り変わらずに」…… 13
「親父の回復、快福!」…… 15
「感謝の涙でいっぱいでした」…… 17
「私の介護功徳」…… 19
「ありがとう」…… 21
「小さな旅」…… 23
佳　　作　「オリンピックリモート応援の思い出」…… 25
「「よ」言葉にありがとう」…… 26
「野菜直売所は私の生きがい」…… 27
「温かい優しい声」…… 28
「涙と笑顔の誕生会」…… 29
「失明の危機から新しい生活の始まり」…… 31
「生かされて、生きて、生き切って」…… 32
「私の「新しい介護様式」」…… 33
「母ちゃん」…… 34
「コロナに負けない繋がり」…… 35
「まさか窓ごしで…」…… 36
「苦手な工作」…… 37
「忘れられない一日」…… 38
「素敵な笑顔」…… 39
「「よだれを拭いて」」…… 40

第9回かながわ感動介護大賞　応募作品の総評 …… 41

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。
※介護を受けたご本人・ご家族以外からの作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。

「コロナ禍の中の母との別れ」末包 玲奈様

感動介護を行った事業所
社会福祉法人カメリア会 特別養護老人ホーム カメリア藤沢SST

2021年1月に、88才の母はお世話になった特養の自室で永遠の眠りにつきました。その1年前から世界を変えてしまったコロナ禍の中、自転車でも行ける近さの施設に居るのに、感染予防で面会出来ない日が続いていました。しかし、「タブレットでお話し出来るようにしました!」「外のテラスと窓サッシ越しに面会出来るようにしました!」と次々と方策を考えて下さり、認知症がある母ですが、私に手をゆらゆらと振ってくれる様子を直に目にすることが出来ました。そして、ウイルスを持ち込まないために、職員の皆様方は自己の生活も犠牲にして気を付けていただいていると聞いていた中、いよいよ母の命の灯が、となった時、「マスク、フェイスガード、キャップ、消毒などしてもらいますが、毎日でもお部屋に来ていただいて構いませんよ。」と言って下さり、子、孫皆で訪れ、母のそばに居られる日々の機会を与えて下さいました。もしよく耳にするニュースのように、骨になるまで会えなかった、となっていたら、と思うとご配慮に感謝の気持ちで一杯になりました。

亡くなった晩、勤務が終わってとっくに帰宅なさっていると思っていたスタッフさんが、まだ残って送り出してくれ、そして、この1年を中心とした母の写真やビデオを編集したCDをその場で作って渡してくれました。会えなかった時期の母の笑顔がそこには溢れていました。

「私も、ここにしてね。」「うん、俺もな。」と夫婦で話しながら、今も母を想い出しています。

＜ 講 評 ＞

コロナ禍の感染防止対策で、施設や病院では面会ができない状況が続きました。その間、ご家族もご本人も相当に不安を感じたと思います。

緊急事態宣言が解除されると、施設や病院も面会の機会を作ろうと様々な工夫をされていました。

このエピソードでは、タブレットを使用した面会、窓越しの面会をされ、まだ感染の状況が厳しい時期だったと思いますが、いよいよ看取りの際には感染対策を講じながら、直接の面会ができるような対応がされました。ご家族が一緒に過ごせる時間を作り、安らかな見送りができたと感じています。

また、本来であればご本人とご家族が一緒に過ごせた時間を、スタッフがご本人の笑顔いっぱいのビデオで伝えられたことに、とても温かい気持ちになりました。

「みんなの笑顔にありがとう」浜田 房子様

感動介護を行った職員

社会福祉法人伸こう福祉会

看護小規模多機能型居宅介護 クロスハート港南・横浜 職員の皆様

10年以上認知症を患う母を父が介護してきました。骨折と入院を繰り返し、老老介護はもう無理と途方にくれる中で出会ったのが看護小規模多機能型居宅介護の施設です。「私たちは拘束しません」と大きく壁に貼られたモットーと、楽しそうに働く職員さんの姿に、母を引き取って介護しようと決めたのは昨年の4月でした。デイサービスから帰る満面の笑顔の母は、職員さんの手を取ってはチュッチュ。「いい人なのよ。よくしてくれるのよ」と言います。楽しい一日を過ごしたことがわかります。歩く力もつきました。体調を崩したのは今年1月です。施設の車で病院へ行き、その日に入院。胆のう炎と癌の治療を受けて退院したのは3月末でした。発熱が続きました。往診医、施設の看護師さん、ケアマネさんと話し合い、家で看取ることを決めました。それからは毎日のように看護師さんが家に来て、こまやかなケアをしてくださいました。代わる代わる介護士さんが来て話しかけ、歌ったりハモニカを吹いたり、母に楽しい時間を過ごさせてくださいました。あと一週間もつだろうかという頃、ケアマネさんは「北海道の温泉だよ」と、入浴剤を持ってきてくれました。帰ることのかなわなかった故郷の温泉に手浴足浴することができたのです。6月4日、母は穏やかな顔で旅立ちました。気持ちの揺れ動く看取りの日々をやり抜くことができたのは、施設の方々のあたたかい笑顔と心のこもったケアのおかげです。

＜ 講 評 ＞

多くの人が人生の最終段階を親しい人に囲まれ、住み慣れた地域で迎えたいと考えます。一方、介護が必要になったとき、周囲に負担をかけてしまうという思いもよぎります。

エピソードは、お母様を引き取り自宅で看取るまでの揺れ動く娘さんの気持ちとお母様の心身の状態に応じたスタッフのケアの様子が綴られています。スタッフがご家族の支えとなり、お母様の最期の瞬間まで楽しい時間を過ごしてもらえるようケアをしている姿勢に心を打たれます。誰しもが安心して人生の最終段階を迎えたいと思います。

介護とは、ご本人やご家族に対して、生きること、人生そのものを支えていくことを改めて気づかされるエピソードです。

優秀賞

「デイサービスに、行きたい」 伊東 匡美様

感動介護を行った事業所

特定非営利活動法人 花梨 デイサービスきんかん大磯

平成29年1月から、毎月のカレンダーなどの制作物を持ち帰り、誕生会やクリスマス会などの行事に参加し、週3～5回母は楽しくデイサービスに通っていました。令和2年1月、肺炎で入院した93歳の母の様子を退院支援の面談後病室に見に行った時のことです。「今一番目は家に帰りたい?」との私の問い掛けに頷いたので「二番目は何?」と尋ねました。なかなか答えられず、暫くして「贅沢言わないから、きんかんさん」と答えたのです。同席のケアマネさんと私は涙ぐみ、どれだけ母がデイサービスに行きたがっているかが痛い程わかり、以後の目標ができました。自宅に戻った日にデイサービスの職員さんが来て下さり、「立ってみましょう」との声掛けに母は車椅子から立ち上がり、職員さんの手引きでベッドまで歩くことができました。「100点満点」と誉められ、次の日からデイサービスに出かけて行きました。2ヶ月振りの復帰を祝って昼食にお赤飯を炊いて貰ったことが連絡帳に書いてありました。

ベッドで一日寝て過ごすことが多くなっても「起きられたらデイサービス行きたい」と言い、10月末まで何とか週1回通いました。

母の遺影は、デイサービスで近所の神社に桜のお花見に連れて行って貰った時の満面の笑顔の写真にしました。

自宅から一番近いデイサービスに、母は楽しく通えて幸せで、その母の姿を見ていた私達家族は、職員さんに感謝の気持ちで、いっぱいです。

＜ 講 評 ＞

「デイサービスに行きたい」。退院に向けてのご本人の希望。

ご家族と支援者にとっても、ご本人がデイサービスに行けるようになることが大きな目標になりました。ご本人にとって、このデイサービスはご自宅以外の大きな「居場所」であることが感じられます。そして、退院当日にデイサービススタッフがご本人の状態を確認し、次の日から通えることに。ご本人の思いを叶えるためのスピード感をとても感じました。

復帰した日はお赤飯のサプライズ。また、誕生会など様々な催しの機会やお花見の笑顔の写真、ご本人が楽しみにしていることがよく分かるエピソードです。

以降も身体的にかなり大変だったのでしょうが通い続けられ、ご本人だけでなく、ご家族やスタッフの思いが繋がった温かな作品でした。

優秀賞

「オムツ替え～開眼」大石 勝己様

感動介護を行った事業所等

社会福祉法人朋光会　横浜市名瀬地域ケアプラザ

介護者のつどい　さくらサロン名瀬

妻がオムツをしなければならなくなった。本で調べたり、人に教えてもらい「家」で妻のオムツ交換ができるようになった。汚れたオムツを見るのもイヤな気持ちで、さわるのも抵抗がありました。大変な思いをしながら、一日五～六回オムツ替えをします。

ある日「介護者の集い」があり参加。同じように妻の介護をしている方もおりました。話題がオムツ替えの話になりました。赤ちゃんを育てた事のない男性にとっては、抵抗がある。負担ですねと同情します。この集いで心に響き、嬉しかった事があります。介護従事者の方が「私も母の介護をしています。オムツ替えを始めた頃は大変でした。ところがある日、母のオムツを替える時間が遅くなった。その時「うあ、お母さんに新しいオムツ替えるの遅くなった」と思った瞬間、気付きました。新しいオムツに替えるんだわ。汚れたオムツをとりかえるんじゃなくて！　同じ事をしているのに新しいものに替えると思うと明るい気持ちになる。よごれた物、きたなくなったものをとり替えると思うとイヤな気分。それからは毎日お母さん新しいオムツに替えましょうと明るい気持でオムツ替しています」と話されました。うれしかったです。この話が聴けてよかった。妻が汚したものをとり替えるんじゃない。妻に新しい気持ちのいいオムツしてあげれると思えた。私のオムツ替え開眼の瞬間です。それからのオムツ替え、明るい気持でできるようになりました。感謝しております。ありがとう。

＜ 講 評 ＞

78歳のご主人が、初めて奥さんのオムツを交換することになります。苦労の末、何とか交換できるようになっても、汚れたオムツへの抵抗感は無くならないまま、毎日毎日奥さんのオムツ交換は続きます。

介護とは、自分ではない他者の「生きていくこと」を支えることです。食事や入浴の介助、オムツ交換等を介護だと思う人は多いかもしれません。でも、介護とは、それらの目に見える介助を通して、介護を受ける人が安心して心地よく生きていくことができるように支えることなのです。

汚れたからオムツを替えるのではなく、大切な奥さんが、さっぱり快適に暮らすためだと「開眼」した大石さんの作品は、介護に携わるすべての人に、介護のもつ本当の意味と素晴らしさを教えてくれています。

優秀賞

「笑顔でおはよう 笑顔でさよなら」齋藤 カツ様

感動介護を行った職員

株式会社サロンデイ　サロンデイ小田原高田 青木 亜希子さん

　清々と開け放たれた窓からは、青く晴れ渡った夏空、緑の木々を吹く風が会場に流れてくる。さあ今日も体操だ!!　スタッフの人達の笑顔に迎えられ思わずこちらも笑顔になる。コロナ禍のため先ず上履の消毒から。体勢の整ったところで再び手の消毒をしてお茶をいただく。隣どおしの席は離れ、お喋りは厳禁!! 互いに笑顔を交わし、遠くから手を振ったりして挨拶を交わす。スタッフは一人一人の体調を気遣いながら、やさしい言葉をかけられる。私も交通事故以来、お世話になって四年近くなる。体操などした事もなかったのに。人様が見たら変な格好だと思うでしょうが、気にもせず励んでいる。其の後転んだ事もない。生きている限り私なりの元気で生活できるよう願いつつ。　スタッフの指導による体操が始まり、それぞれ自分の体調にあわせ一生懸命である。時にはちぐはぐの動きになって大笑い。子供にかえった様な無邪気さ。少し気持の明るくなった人も居て「頑張れ」などの言葉かけもあり、皆温かく意にこたえる、何とも微笑ましい会場内である。　さあ次はマシンに移っての訓練、「一・二・三・四」の呼吸に合わせスタッフの真剣指導に会員も頑張る。運動したという満足感は嬉しい。　スタッフは大変だ。指導と消毒!! 会員一人一人の使用したすべての物の徹底消毒をして気を抜く間はない。本当に大変だがそれでも大変だと云う表情は見せず頭が下がる。早いコロナの終息を願って止まない。体操も終わり心身共に軽くなった思いに満たされる。スタッフの皆様の笑顔に送られ手配の車に乗せていただき感謝しながら帰宅でーす。

＜ 講 評 ＞

新型コロナ感染症の対応策として、手洗い、消毒は当然のこととなりました。また、3密を避けての黙食、ソーシャルディスタンスをとりマスクをしている相手の笑顔をみることも難しくなりました。そのような大変な状況の中においても、スタッフの明るい対応に感謝し、仲間同士のやりとりで前向きな気持ちになり、1日を楽しく過ごされている様子が伝わります。スタッフの笑顔と共に一緒に体操を楽しむ仲間との交流が元気のもとになっていることがわかります。元気でマスクなしでのおしゃべりと、笑顔あふれる生活が早く訪れることを願わずにはいられません。

優秀賞

「あっぱれ、とよさん」安部 肇子様

感動介護を行った職員
社会福祉法人中川徳生会 特別養護老人ホーム
ビオラ市ケ尾 職員の皆様

「明日ばあさんの誕生日なの。」母の入所する特養で、きれいな花を持った人に声をかけられた。

以来そのご家族と話をするようになり、おばあさんの「人となり」も伺うことになった。96歳で、名前は「とよ」さんであること、働き者で、おしゃれで、踊りをなさっていたこと、おこわとチーズが好物であること。とよさんは私が帰る時には必ず手を振ってくださった。亡き父と同い年ということもあって、いつしか家族のように思った。

そのとよさんの食が極端に細くなった。ご家族が施設に運んだ好物を、スタッフさんが重さを測り小分けをし、少しずつ食べさせていた。私の仕事が終わって母の所に寄る時間がとよさんの夕食時であった。人工的なケアは嫌だというとよさんの意思は変わらず、おしゃれも変わらず、少しずつの日常も変わらなかった。

勤労感謝の日、とよさんは旅立った。看護師さんに電話をもらったご家族は看取ることができた、と涙を流していた。スタッフさんの目にも涙があった。穏やかだったと聞いた。最期までおしゃれであった。あっぱれ、とよさん!と心の中で叫んだ。最期までかっこよかった。同時に本人の意思を尊重し、「とよさん」として生ききらせてくださったスタッフさんの志にも感銘を受けた。

人は必ず死ぬ。誰にも避けられない現実である。その瞬間まで日常を生ききったとよさんと、生ききらせたスタッフの皆さんの熱い志に「ありがとう」を伝えたい。

＜ 講 評 ＞

誰でも歳をとり、少しずつ身の回りのことに手助けが必要になると他者からのケアが必要になります。そのケアが一様でなく、その人その人の「人となり」に合わせて組み立てられていたとき、その方だけの人生を生ききることができるのかも知れません。

おしゃれで、踊りが上手で、おこわとチーズが好物なとよさんは、ご家族や施設のスタッフによるケアに支えられて、最期の時までとよさんらしく生ききることができました。「とよさんらしい生き方とはどんな生き方だろう?」「とよさんはどんな人生を歩んできたのだろう?」「とよさんらしい人生の最期の迎え方はどんなだろう?」このような試行錯誤がスタッフの間で真剣に検討されていたことは想像に難くありません。

人生を最期まで支えるケアの在り方をあらためて指し示してくれる。そんなエピソードでした。

優秀賞

「いつも通り変わらずに」 佐々木 キミ子様

感動介護を行った事業所
株式会社サロンデイ サロンディウェルハイム ひばりが丘

季節の訪れを例年のように迎える事が難しい春でした。新型コロナ発生、緊急事態宣言発令、ステイホーム等々当初報道を見聞きする度に気持が落ち込んでいく不安な日々の中でしたが、ご近所にお住まいのNさんが「家の中に長く居ると『コロナうつ』になり易くなるそうなので、気を付けましょうね」と励まして下さいます。コロナに負けずに、サロンデイに通われる、朗らかで、ユーモアが有り、気力の有るNさんは95才の素敵な女性です。

暫らくお休みしていましたが再び出かける嬉しさと少し緊張感の中、送迎車でサロンデイの玄関に到着しますと、いつも通りの明るい笑顔の所長、先生、スタッフの皆様が揃って迎えて下さいました。利用者の方々のお顔も明るくて、心湧き立つ思いが致しました。予防の為、全員がマスク装着してリハビリを受けます。家の中で自己流で行っていた時とは違って、やはり先生ご指導の元で身体や頭を使うリハビリの大切さを、つくづく感じました。いつもと変わらない内容で受けます事で緊張が解けて、安心感に繋がり、自然と心も身体も動いています。心地良い疲れで、その晩はグッスリと眠れました事も喜びです。決して無理せず、その日の体調に合わせて、ゆっくりと続ける事の大切さを優しく、励まして「やる気」を上手に引き出す、先生、スタッフの皆様には、きっと、不思議な魔法の力をお持ちなのでは!と思いながら気持良くリハビリを受けています。自分の中に有る「やる気」を引き出して頂いた事が自信になっていくようです。

生活の中で、少しの自分の変化を感じた時の嬉しさは格別です。サロンデイの皆様のご指導に感謝の気持を持って、これから先も長くご指導をお願い致します。

＜ 講 評 ＞

コロナ禍で、季節の訪れを例年のように迎えることが難しい春に、ご近所の95歳の朗らかな女性の言葉に励まされ、デイケアへの通いが再開される喜びが生き生きと表現されていました。デイケアの先生やスタッフの皆さまのご指導のもとで、今までと変わらぬ内容であるにもかかわらず、安心感につながり自然に動く身体と心から得られるここちよい疲れは熟睡へとつながっていくこと、ご本人のスタッフの方々への全幅の信頼がご本人の「やる気」を引き出してくださり、その充実感に嬉しさと感謝が綴られていました。お互いの信頼とお互いの存在が元気につながる双方の心温まるエピソードでした。

優秀賞

「親父の回復、快福!」榊原 正直様

感動介護を行った職員
社会福祉法人湘南福祉協会
グループホームこころ 田辺 香織さん

2020年8月31日、熱中症の親父が救急車で搬送された。95歳と高齢のため、ここまでかと覚悟を決め入院生活を始めた。

病状の回復を見てなんとか退院が決まったが、91歳のお袋と二人きりの生活は継続できずに「グループホームこころ」でお世話になることにした。他県で仕事をしているため事前見学もせずに、この施設なら大丈夫と決めたのは、田辺施設長の初動の「電話対応」の言動につきます。気さくで飾らなく、話をしていてこの人なら、親父を任せようと思うくらいの「安心感」を感じてしまった。説明も分かりやすかった。

さて、退院後の親父はやせ細り、元気がなくこの先どうなるのだろうかと心配と不安が過ったが、電話で感じた施設長からのイメージ通り、到着して驚いたことは、施設長の元気で大きな声に圧倒され、不安がすぐに消え去り、親父も皆さんとすぐに溶け込み、対応の温かさに感動すら覚えました。

コロナ禍で、施設へ足を運ぶことを控え9カ月後に親父と対面。少し太り、すっかり回復した親父に、もうビックリ!歩行器も上手に使用し、会話もはずみ喜びを覚えました。

よくここまで回復させたものだと、重ね重ねビックリと感動でした。施設長はじめスタッフのケアがあったからこそだと、そしてこの施設にして良かったと思いました。

帰りぎわに施設から、得意とする親父のハーモニカの音が、聞こえてきそうでした。感謝!

＜ 講 評 ＞

急な入院からの施設入所で、ご家族の不安も大きかったことと思います。ましてやお父様は95歳という高齢。施設での生活に慣れることができるか、元気で暮らすことができるか、心配の種が尽きなかったことがよくわかります。田辺施設長の対応はそんなご家族の心配の種を一つずつしっかりと摘んでくれたのでしょう。ご家族の安心がお父様にも伝わったのだと思います。入所後、ご家族がびっくりするほどの「回復」をされたとのこと。施設スタッフが生活を丁寧に支えることで、お父様の力が引き出されたのでしょう。お父様とスタッフの努力がご家族の「快福」にもつながったことと思います。面会後のお父様のうれしそうな様子が目に浮かびます。

優秀賞

「感謝の涙でいっぱいでした」安藤 フジ様

感動介護を行った事業所

株式会社ZENウェルネス アシステッドリビング湘南佐島

私は、今相模湾の左に大島右に伊豆半島を眺める看護付のホームに来て10ヶ月になります。この景色は、私が生まれ育った故郷に良くにておりまして毎日眺めては、今は亡き父母兄姉弟をなつかしく想い出しております。

このホームは、景色だけではなく、私が居る1Fに介護士の阿部智子さんがおられまして、何時もユーモアがあり頓智がすばやく皆さんを喜ばせてくださいます。私は悩みや、人に知られたくない事を聞いて頂きます。その時出来なくてもいつのまにか解決して下さいます。私は歩行器で歩いておりますので庭に出られません。阿部さんは、大変忙しいのに、天気の良い日は、皆さんを庭に手を貸して下され、久しぶりに外に出て、きれいな空気を思う存分すいこんで阿部さんが植えておられる季節の花をながめては皆さん、阿部さん、ありがとうと喜びます。今日も私は一人用のお風呂に入っておりましたら、安藤さん、大丈夫ですかと、何回も何回も顔を出して声をかけてくださるのです。私は、このホームに来て、毎日毎日気を使って過ごして、夜など今まで生きて来て、こんなに気を使っている事にときには、悲しくなる事がありました。私は、阿部さんがこんなに気を使っていられるのに、自分だけが…なんかなさけなくなりつい泣いてしまいました。阿部さんがどうしたの涙なんかとニコッとしておられるのでなほさら泣けて、私は自分だけがこんなに気を使っているのにと阿部さんは、こんなに私の事を、気をつけてくださるのかと思ったらついと泣きながら阿部さんに言ってしまいました。阿部さんは、なにそんな事だったのと笑っておられました。私は朝夕お世話下さる阿部さん介護士の方達に、ホントに感謝の涙でいっぱいでした。ありがとうございました。

これからもっと、もっと、お世話になると思います。宜しくお願い致します。

＜ 講 評 ＞

住み慣れた家を離れてホームでの暮らしを始めるときは、不安だったり寂しかったり悲しかったりと気持ちが大きく揺れることでしょう。

そんな気持ちを解きほぐし、これからの人生に一歩を踏み出す力を与えてくれるのは、やっぱり人が生み出すケアなのでしょう。

ケアといっても身体に直接触れるケアだけでなく、いっしょにお庭に出て季節の花を愛でる。きれいな空気をいっしょに吸い込む。何度も気にかけて顔を出して声をかける。涙を流しているときにニコッと返す。このように形はないけれども、それがあると何だかこれからも生きていけそうな気がする。こういうことこそ、人が生きていく上で何にもまして必要なケアであると言うことをあらためて教えてくれたエピソードでした。

優秀賞

「私の介護功徳」中村 義彦様

感動介護を行った職員
株式会社サロンデイ
サロンデイ鵠沼神明 施設長 廣木 裕也さん

「これからの世の中は　介護福祉を知らなければ生きていけない」

妻との会話の中で　私の老後の方針が決まった　介護の仕事で老後の生きがいとしよう　と決心したのです　生産会社の役員定年を1年後にひかえていた

70歳で　藤沢市の「2級ヘルパー講習」を受講した　50人定員で　男性は3人　しかも私は70歳ですから　異色の存在です

「中村さんのような元気な高齢者が　これからこの仕事では求められる」と幾度となく紹介された

私の老後は　男性平均寿命からあと10年と考えた

前半5年間は介護の仕事でひとに喜ばれ　後半の5年間はひとさまの世話になる　という考えだった

講師の先生から声がかかり　市内の「特別養護施設　ラポール」に就職した　もちろん第一線での介護実務を担当した

先輩?に教えを受けながら　気が付いたら7年も経過していた　前半を永くやりすぎたかなと思っていたら　元気印の妻が倒れた　わずか3カ月の介護ではあったが　直接　自分の手で妻の介護ができたことに満足している

今年　私は91歳になる　いつの間にか予定の80歳を10歳もオーバーした

しかし想定した80歳前後は危なかった　狭心症　膀胱がん　前立腺がんが発症した　糖尿病は悪化し腎臓機能が低下した　眼の黄斑変性も進み　まさに満身創痍だった　「オリンピックをみて逝きたい」　と言ったら　医者は正直にも　「それはムリだろう」　と答えたほどである

家族が近くの「機能訓練型デイサービス　サロンデイ」の見学に同行してくれた　整理整頓され　明るい雰囲気が気に入った　職員はよく訓練されていて親切で温かい　同じ日の利用者は　10人程度なので　家庭的な雰囲気が

ある　歩行訓練で互いに拍手で応援する光景は　よその訓練所では見られないと思う

今はコロナマスクでおしゃべりが制限されているがテイタイムがあった頃はふるさとの自慢や趣味のおしゃべりに花が咲いた　玄関口まで送迎があるのが嬉しい　少しくらい体調がすぐれなくても　リハビリ　おしゃべりで　元気をもらうのを　たびたび実感した

「ああ　疲れた　でも楽しかった」帰宅すると　家族も明るくなる　好循環である　いちどもイヤな扱いを受けたことがない　良い事業所　楽しい仲間と巡り合ったことが嬉しい　これが私の寿命をのばした原因と思う

オリンピックは目前にせまった　余生の目標は　18歳になった「孫娘の成人式まで」と変更する

＜ 講 評 ＞

中村さんは、70歳から第2の人生で介護実践に身を投じ、「2級ヘルパー講習」からはじめて介護実務の最前線で活躍した方です。異色の存在として注目をあびながら気がつけば7年、最愛の妻を看取り、自身の健康にも変化が訪れた。80歳前後の危機を乗り越え、今91歳にして念願のオリンピックを見ることが叶った。現在親切で温かい職員に見守られながら歩行訓練に励み、楽しい仲間とのリハビリ、おしゃべりが元気の秘訣とのこと。老後の人生をその慧眼で切り開き、日々の生活を楽しむ力こそが長寿の源なのでしょうか。これからは孫娘の成人式を中間目標として、百寿に向かって楽しんで下さい!

優秀賞

「ありがとう」

有限会社太陽 太陽ケアセンター
住宅型有料老人ホームやまぶき　多田 洋子様

左右上下肢体不自由でご入所されたO様。寝たきりで失語もあり会話もできません。その中、担当介護職員のKさんは毎日笑顔で話しかけながらサービスを行っていました。ある日、ベッドサイドレールを叩くかすかな音が聞こえ、その音を辿っていくとO様がかろうじて動く左手で叩いていました。「どうしたのですか?」と声をかけ、一つずつ質問してうなづきを確かめ、おむつが汚れていたことが分かりました。

言葉が話せなくても訴えたいことがあるのだと思った職員のKさんは、試行錯誤してO様が日頃訴えていることをなんとか動かせる左手の指で知らせる、ということができることになりました。1が「尿が出ました」2が「便が出ました」3が「カーテンを閉めて下さい」というように。こうして指での会話ができるようになりました。ある日のこと。O様が左手で2を出したので排泄介助を行いました。「はい、綺麗になりました。さっぱりしましたね」とO様の顔を見ながらお声をかけるとO様が「あー」とかすかに声を出しました。「どうしましたか?」とお聞きするとやはり「あー、あー」と声を振り絞って出しています。K職員が「もしかしたら、ありがとうとおっしゃって下さっているのですか?」とお聞きするとO様は大きくうなづきました。そうです、O様はK職員に「ありがとう」の言葉を言ってくださったのです。これからも、沢山のありがとうに包まれている施設でありたいと思います。

＜ 講 評 ＞

左右上下肢体不自由で会話も難しい状況の入所者の方。多忙な職員が言葉以外のわずかなサインをキャッチできるのは、そこに知識や介助の手順だけでなく、アートが存在するからだと思います。アートとは、研ぎ澄まされた五感や直感、そして入所者を理解しようとする姿勢と表現できるかもしれません。この作品からは、職員Kさんの神業を見た多田さんの感動がひしひしと伝わってきました。そして、Kさんの介護のすばらしさが分かる多田さんもまた本物の介護職なのだと思います。

優秀賞

「小さな旅」二又 玲子様

感動介護を行った事業所

特定非営利活動法人 ワーカーズコレクティブグループともはなもも（現在閉所）

5年前、横浜から川崎市麻生区に引っ越してきて、まず、同居していた義父のディサービスを探しましたが、いいなと思う所がなく、4件目にやっとこじんまりした一軒家のところがあり、義父も気に入って週2回お世話になることになりました。

そこの良い所は庭に野菜を植え、昼食にも食材としていました。又、ピアノが置いてあり、元ピアノの先生が弾かれ、とてもアットホームな場所でした。

義父は能登で農業を営んでいたので、野菜作りを指導したりしていたようです。週2回でしたが、楽しみにしていたようで、写真はいつも笑顔でした。そんな義父も2年前、肺炎を繰り返し、96歳の天寿を全うしました。

この施設では、少人数ということもありますが、近くのハーブ園へと頻繁に外へ連れ出してくれました。何より、有難かったのは、泊りの小旅行へ連れて行ってくださったことです。信州の諏訪への一泊の旅でした。お土産もたくさん買ってきて、楽しそうでした。次回も楽しみにしていたのですが、直前に肺炎になり、入院してしまい、退院後も元の生活には戻れず、老健に入居となり、ディサービスも行けなくなりました。

職員の方の負担は並々ならぬものがあったと思うと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この旅行のことを思い出すと気持ちがなごみます。

＜ 講 評 ＞

同居していたお義父さまと一緒に引っ越した先で、ようやく探したデイサービスの取り組みに対しスタッフの配慮と細やかな心遣いへの感謝が述べられているエピソードでした。

お義父さまの過去の農業をしていた経験を大切に野菜作りの指導を担当させてくださり、写真はいつも笑顔であったこと、外出の機会が多かったこと、信州への1泊の小旅行での思い出の数々。それらを実現するために職員の皆さまのご負担は並々ならぬものがあったと感じ、「この小旅行を思い出すと気持ちがなごみます」という言葉で96歳の天寿を全うされたお義父さまの思い出とともに、ほのぼのとしたエピソードとしてまとめられていました。

佳作

「オリンピックリモート応援の思い出」松村 恵美子様

感動介護を行った事業所

株式会社ネクサスケア ネクサスケア伊勢原 訪問介護事業所

昨年からのコロナの影響で、人々の生活が一変しました。私のいるホスピスも家族でさえ面会に制限が設けられています。それでも、寂しいと思うことがなく生活を送れたのは、スタッフのおかげです。

そんなコロナ生活の中、応募したテレビ局のオリンピックリモート応援に当選する幸運に恵まれました。

当日はスタッフの人も忙しい中、パソコンに繋がるか、カメラに映るか、音声がちゃんと聞こえるかなど、パソコンに強い介護士さんが手伝ってくれました。無事に繋がった後は、難病で話ができない私に代わって、介護士さん達が順番に、“天の声”をしてくれました。番組MCの方も察してくれ、面白い介護士さんには、ツッコミを入れてくれたり、リモート応援に繋がっている事を忘れて話している介護士さんには、「その内容、みんなに聞こえていますよ～」とハプニングもあり応援を彼らと盛り上がる事ができました。介護士さん達のお陰で、リモート応援と言う貴重な体験をする事ができ、彼らには感謝でいっぱいです。

普段はコロナ禍で 一人静かに応援するところを リモート応援に参加できたことによって 日本中の方々と応援できることが こんなに楽しいことだと思い出させてくれました。私の声と気持ち、技術的な面もサポートしてくれた介護士さんたちにも金メダルをかけてあげたくなりました。

佳作

「「よ」言葉にありがとう」佐藤 理八様

感動介護を行った職員
株式会社サロンデイ サロンディウェルハイム淵野辺
NSK三羽烏（名倉さん 篠塚さん 川嶋さん）

●私は昭和2年生れ94歳です。9年前からペースメーカーが入っています。現在支援2、去年7月からサロン・デイさんにお世話になっています。●妻は92歳、平成27年玄関で転倒、現在介護2、以来お世話になっています。●二男夫婦と同居ですが別世帯、二人共働いているので、家事全般と妻の介護は私がしています。入浴は去年5月からヘルパーさんにたのんでいます。●過日二男から「甘えと面倒のみすぎ、食べさせ過ぎが太る原因、なにもできなくなっているんだ、みんなおじいちゃんの責任だ」といつもより厳しく責められました。●反発もしましたが、大きい声で妻にあたったり、怒るようになりました。●今回介護エピソードに応募し、いろんなことがみえてきました。これからは益々の介護の必要、二男の言い分、叱ってはいけないことなど、反省もできました。●サロン・デイさんには今まで大へんお世話になり励まされてきました。それが「よ」言葉でした●前所長のKさん「待ってますよ」「大丈夫よ」「立派ですよー」など笑顔のKさん有り難う●看護師のNさん、私の健康を心配しての、たくさんの「よ」をいただきました。妻の体調も一緒に心配してくれています。「そんなこといっちゃだめですよ」「みんなおんなじよ」と、心のリハビリもしてくれます、有り難いです。●所長で機能訓練指導員のSさん“青年新所長、私達もスタッフも引っぱってくれる。「では始めまーす」の声と、ポパイの腕に元気をもらっています、安心。●二男夫婦、私達をのべ4回、コロナワクチン接種に連れて行ってくれました。●妻とよーく話しあい、ダイエットも始めました。私もまた妻と一緒にサロン・デイさんにお世話になることにしました。NSK、スタッフの皆さん、又「理八さん」と呼んでください。

佳作

「野菜直売所は私の生きがい」

社会福祉法人合掌苑 デイサービス輝の杜
濱道 明日香様

一度目の（令和元年）の脳梗塞により左麻痺、直近の二度目（令和2年10月）の脳梗塞により右軽度麻痺となり、初回ご利用時は、週1回利用、オムツ着用でベッド上排泄介助、食事全介助の状態で来苑されました。

令和3年4月からデイの増回をされ、ますますお元気になられていた時に、更に〇様にとって積極的な離床のきっかけ・目標を作れないか?と思い、〇様の仕事であり、生活の中心であった「野菜の直売所」を輝の杜で開催させて頂きました。

以前、他のお客様が「〇様の家のお野菜は美味しくて地元で有名なんだよ。〇様は働き者で努力家なんだ。」と言うと「私が売ったら全部売れたよ!」と笑顔で話してくれていました。3日前より野菜の値段を覚え、前日はドキドキして眠れなかったとの事でしたが、40分で完売!娘様に「全部完売しちゃったよ!」と第一声。「昔やっていた事がまたできて嬉しかったんじゃないですかね!」と娘様も嬉しそうでした。7月で第4回目の開催となりました。

「これだけ皆さん楽しみにしていると現役辞められないですね!」と声を掛けると「まったく～ほんとだよ。」と笑ってくださっています。

お孫様からも「おばあちゃん表情が変わったね」と言われたとの事。

皆が楽しみにしていてくれる。皆の驚く顔や喜ぶ顔がみたい。だからまだまだ現役を止められない。

地域への販売も実現したいと思っています。

佳作

「温かい優しい声」近藤 壽美子様

感動介護を行った職員

株式会社グッディ デイサービスセンター グッディ 篠崎 正次さん

デイサービスセンターグッディにお世話になってもう七年目。月日の流れは年毎に早く感じます。去年まで気にしなかった息切れや足腰膝の痛みに気分まで暗く落ち込みます。デイの帰り初めて担当した運転手さんが私が歩き始めると、背中に手に当てようとしたので私は驚いて「さわらない!」と大声を出してしまいました。触られる事が嫌でした。運転手さんは施設長に「叱られました。」と報告し、「今はまだ信頼関係も築けていないので、驚かれたのだと思います。でもいつ何があるか分からないので、支えられる位置にいてあげて下さい。」と言われたそうです。

ところが去年の四月に、自分の不注意で腰を圧迫骨折してしまい入院となりました。一年たったのに未だに痛み、すっかり歩行に自信がなくなりました。嫌がっていた私が、今は車に乗降する際運転手さんに手提げを持ってもらい「ゆっくり、急がず焦らずね。」と声を掛け、腕をしっかり組んでもらっています。「お母さんとこんなにするのが夢でした。」と涙ぐんで喜んでくれました。私も幼くして母を病気で亡くし、母との思い出が無くてその気持ちは良くわかります。

「こんな婆さんでごめんね」と私。　今では「転ばぬ様にゆっくりゆっくり。」と運転手さんの温かい優しい声の後、私も「どうぞ安全運転で皆様を無事に送ってね。」が合言葉になっています。運転手さんこれからもお世話になります。どうぞ宜しくお願い致します。

佳作

「涙と笑顔の誕生会」

社会福祉法人徳心会 特別養護老人ホーム菅の里
3階フロア 介護員一同 様

入所され1年と数ケ月になるH様。アルツハイマー型認知症の既往があり、入所当初から話のつじつまが合わず、妄想的な独語も見られた。言葉の明瞭度も低下しており聞き取れない部分が多いが、よくよく聴いていると常に御家族とお話しをされている事がわかった。

しかし入所以来、コロナ予防により御家族との対面面会は出来ていない。施設ではオンライン面会を行っていたが、H様が画面の中の御家族を認識出来るか不安があったし、H様御家族からの申し込みはなかった。H様入所直後にはH様の夫がお亡くなりになり、御家族は「オンライン面会を申し込むタイミングを失ってしまった。入所して1年以上が経った今となっては家族の事を覚えているのか不安。」と言われていた。

一方、H様の言葉からは、「Yちゃんは優しい子。」と聞かれる事があり、それは長男妻、Y様の名前であり、Y様も「本当の母子の様に思えるお母さん。」と言われていた。じきに訪れる80歳のお誕生日にオンラインを繋げないかY様に相談した所、悩まれた様だが数日後に「是非。」と返信を頂けた。

そしてその当日。

オンラインで繋ぐも、画面の中のY様を認識出来ないH様。フロア

でバースデーソングを歌い、ケーキプレートとお誕生日色紙、事前に預かった御家族からのプレゼントをお渡しする様子をY様に見て頂いた。「80歳おめでとうございます!」と言うとH様は、「冗談じゃない。私は80歳なんかになっていない。確か18か19位。」と真面目に言われ、周囲一同和やかな雰囲気に包まれた。Y様の微笑んだお顔が画面に大きく映った瞬間、H様の笑顔が柔らかくなり、「あれ?今夜何を作ってくれるの?」と言われた。H様は明らかにYちゃんとわかって話されていた。

その後も、施設内では口にする事がなかった具体的な地名や人物名がH様から次々と出て、ゆるやかな仲睦まじい親子の時間が続いた。Y様が驚かれ涙ぐまれていたが、我々も驚き、嬉し涙と笑顔のオンライン誕生会となった。

御家族の力は大きく、コロナ禍で入所利用者様との対面面会は難しくも、如何に御家族とのふれあいを持ち続けられるかを考え、御家族が利用者を支える一員として出来る支援を提供するのも我々の仕事だと、改めて感じる機会となった。

佳作

「失明の危機から新しい生活の始まり」宮田 冨雄様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 鈴保福祉会 柿生アルナ園 日帰り介護事業所

私は視覚障害者で、右目の視力0.1、視野が30%程度です。左目は、10年ほど前に緑内障で視力を失いました。このため物が霞んで見え、一人での日常生活が大変困難です。特に照明のない場所、階段の昇降、人の集まる場所での歩行は危険です。また、文字の読み書きが難しく、テレビはほとんど見ません。昨年の夏頃から眼圧が高くなり、このままでは失明すると言われ、11月に病院で緑内障と白内障の手術をしました。しかし、視力は元に戻りませんでした。退院以降、自宅内だけの生活になり、食事、散歩、入浴など、一人では何もできない苛立ち、将来に対する不安から家族に当たるなど暗い日々が続きました。ある日、娘から「お父さん、こんな生活を続けていたら、ボケて孫の結婚式どころか成人式まで持たないよ」と言われ、介護保険施設のパンフレットを渡されました。行政・ケアマネージャーとの相談、介護施設との交渉は娘がやってくれました。その結果「Kデイサービス」・「Yデイサービス」を利用することになりました。7月で3カ月が過ぎようとしていますが、職員の名前も覚え、利用者とも体調や出身地、趣味などの会話をするようになりました。Kデイサービスは、歌や手作りゲームが面白く、一日中笑いが絶えません。また5月から俳句の仲間に入りました。Yデイサービスは、筋力アップ装置や輪投げ大会が楽しく、リーダーとの会話を楽しみにしています。

書きたいことは色々ありますが、最後に、行政、ケアマネージャー、娘と家族、そして笑いのある生活へと機会を作ってくれた介護施設の皆さんに感謝、感謝、感謝です。

佳作

「生かされて、生きて、生き切って」小松 和江様

感動介護を行った事業所
社会福祉法人親善福祉協会 介護老人保健施設
リハパーク舞岡 1F−C

平成十七年三月夫は目覚めた時片手に痺れがあるとのこと救急車にて脳外科へ原因解らず頸動脈狭窄症に依る脳梗塞と判明した時は重度障害者の身になって一日にして人生が一変してしまいました。夫は盲人の為に点訳奉仕をしており私も学生時代老人ホームへお琴で慰問した経験があり夫が老健に障害者としてお世話になるとは思ってもみませんでした。生きることへの介護が施設長始め職員の温かい笑顔に迎えられ希望が沸き、生きようとリハビリに専念出来不安迷いが前向きになり車椅子での移動時も職員の声かけを頂いて元気になり特に施設長の笑顔で接して下さる時は、生き切ろうと前向きになって行きました。私も義父母と三十八年間介護看取りの経験があり老人の急変には心しており夫に寄り添う為老健へ通い家族の様に接して下さった事は感謝でした。十月六日文化祭の日車椅子で参加出来リハビリのお仲間職員の方々と会え又外の空気にも触れさせて頂きもう少し生きれるかと思っておりましたが三日後夕食に立ち合い完食し、「お見事又明日来ますヨ」と別れた明方静かに旅立った電話を受け死に目には立会えずでしたが好きでしたお酒を死後吸い呑みにて二杯又末期の水も通してお世話になりました諸先生、職員の皆様に別れの挨拶も出来、生かされて生きて生き切れた八十八歳令和元年十月九日の旅立でした。一階のロビーに施設長のご厚意で私の書の作品寄賜させて頂き、生かされた証として飾って頂き今尚私共の気持は老健の中に生かされております。感謝です。

佳作

「私の「新しい介護様式」」三橋 万実様

感動介護を行った職員
株式会社メディカルライフケア
ひらつか福祉相談センター 田浦 ひろみさん

私の父は92歳ながら、読書を好み、パソコンやピアノを楽しみ、毎日買い物や散歩をして認知症を発症した89歳の母の介護を一身に背負って生活をしてきました。ところが、コロナ騒ぎの中で、その父が介護の疲れからか突然体調を崩し、何度も救急搬送されることになりました。幸い入院は免れたものの、これから両親の介護や実家のことをどうするのかという問題が私の前に立ちはだかりました。そして在宅勤務が許された姉と私の二人で24時間体制の泊まりがけの生活が始まりました。そんな私を支えてくれたのは、夫と2人の子ども達でした。夫は家事を一手に引き受け、子ども達は毎日のようにビデオ通話で祖父母を励まし続けてくれました。その一方で5月の連休前にケアマネさんが迅速な対応で父の介護認定の手続きや介護ベッドの搬入をしてくださいました。またコロナの影響で通常ならば新規の入所は受け付けてもらえないところを、無理を言って母が週2日のデイサービスに行かれるよう手配をしてくれました。家族だけではとうてい無理だったことを、ケアマネさんや施設の方々の温かい心遣いのおかげで何とか乗り切り、父の容態も少しずつ回復してきました。今回の両親の介護を通じて家族の絆や社会の温かみを痛いほど感じることができました。仕事再開後はヘルパーさんやデイサービスの方々の力を借りながら、「新しい生活様式」ならぬ私の「新しい介護様式」が始まろうとしています。

佳作

「母ちゃん」及川 郁夫様

感動介護を行った職員
社会福祉法人徳心会 特別養護老人ホーム菅の里
介護支援専門員 岡田 知恵さん

母ちゃんとは調布の床屋で知り合った。
よくしゃべってかわいかった。
家事は全然手伝わなかった。
そんな時代だったと思うけれど俺の40代からの病気、オペで苦労かけた。
よくがまんしてくれたと思う。

いつも「父さん」と言ってそばにいてくれた。
俺は母ちゃんにありがとうも感謝のことばも一度も言ったことがない。

ここのケアマネに
「奥さんにプレゼントを作っては。」と言われて何となく作ったガラスの
コースター。
ケアマネが母ちゃんに渡したら喜んでいたらしい。
母ちゃんには感謝をしているけれど、それを何なく言えないままで
照れ臭いし、これからも言えないと思う。コースターを渡せてよかった。
ありがとう、母ちゃん。
いい母ちゃんだよ。
何より母ちゃんがいてくれてよかった。

佳作

「コロナに負けない繋がり」

株式会社スマイル スマイルデイサービス野比海岸
常世田 崇様

「お兄さん、私はここ（デイサービス）に来た日は200％幸せ」が、帰りの送迎の時の口癖のIさん。私が働いている認知症対応型デイサービスのお客様です。このIさん、とってもお元気!デイサービスでは、料理のお手伝い、食器拭きから洗濯物干し、裁縫と、何でもこなしてくれます。そんなIさんの特技のひとつ。海岸から拾ってきた貝殻を器用に接着し、亀や鴨、花などを作ることなんです。自宅で作ってはデイサービスに持ってきてくれます。その作品をなんとかできないかと、コロナ禍でなかなか地域の方々とも交流できない日々が続いていましたので、その作品を事業所の入口に並べ、自由に持ち帰っていただき、できればひとこと残してもらえれば、と、ノートを置いてみました。そのノートに書かれた第一号のコメントに嬉しさと感動が。「かわいいのもらいました。ありがとお」5歳の女の子からでした。直接ではありませんが、Iさんと女の子が触れ合えた瞬間に思えました。私はそんな活動を続けて行こうと思います。コロナが終息し、みんなが直接触れ合える日まで。

佳作

「まさか窓ごしで･･･」

株式会社リカバリータイムズ
リカバリータイムズ末吉 上西 和樹様

「コロナが怖いから行くのやめておくわ」電話は、一回目の緊急事態宣言の時でした。引き留められない。どうしていいかわからない。そんな気持ちでヤキモキしてました。

そこで「つながりを切らない事」という言葉を合い言葉に、スタッフみんなで走り回りました。自粛疲れ、みえない不安、出られないストレス。動きたくなくなって、歩けなくなってしまう。動く気力をなくしてしまう。

絶対良くない。そんな気持ちにさせたくない!

そこで、つながりってなんだろう?を改めて考えたら、顔の見える「心のつながり」と、ここに戻ってきてもいいんだという「社会とのつながり」なんじゃないかと思いました。

家に上がるのを気にされる方とは窓越しで一緒に体操。テレビ電話を繋げていつものメンバーとお話をして頂きました。デイサービスの様子をお便りにして、お渡ししました。気が付くとほとんどの利用者様が戻ってきてくれました。

「まさか窓ごしに体操なんておもってもなかったわ」

「やっぱりここでの運動が楽しいわ」「根気よく声掛けありがとう」

このような言葉や思いを利用者様から頂くことができ、考えながらも色々と走り回れてよかったなと嬉しく思います。

また冗談いいあいながら、楽しく運動できる日常を取り戻す事ができたかな?

いつもと変わらない風景　いつもと変わらない笑顔

これからもつながりは途切らせません

佳作

「苦手な工作」高梨 満江様

感動介護を行った職員

株式会社グッディ デイサービスセンター グッディ 合津 智美さん

私はH26年3月7日からグッディに来ています。

始めは恥しかったのですが、徐々になれました。職員の方全員が皆親切でびっくりしました。主人を看ていた時に色々な施設を見てきましたが、こんなに全員の職員の方が親切な所は初めてでした。

グッディは、毎日手作業の時間があります。施設長の智美さんは人に教える優れた才能をもっています。13名の私達に毎回、色々な物を教えて下さいます。始めの頃、不器用な私は毎日の工作が面倒くさいと思っていました。そそっかしく早く作ろうとして焦って下手になります。泣き真似までして何とかやってもらおうとしていましたが、親切に教えていただき最近は以前より少し出来る様になりました。

本当に感謝しています。この頃は、手伝ってもらわずに自分1人の力で作り上げられる時もあります。もう泣き真似なんかしません。面倒くさいと思っていた工作も出来上がれば楽しいです。

最近コロナウィルスの暗いニュースばかりですが、これからもマスクをしてコロナウィルスに負けず、毎日通います。

外出なんかしないで頑張ります。

これからも、教えて下さい。

よろしくお願いします。

佳作

「忘れられない一日」酒井 照子様

感動介護を行った事業所
株式会社サロンデイ サロンデイリフレ大庭

四十代の頃右膝が時々痛みました。七十代で右足が曲がらず正座できなくなり、八十代になると急に足が萎えて、右に重心が移り、体幹が崩れ歩行困難になりました。検査結果は右足が1.5㎝短いと出ました。靴底に敷皮を敷き矯正に努めましたが腰が曲がりシルバーカーに頼るところまできてしまいました。ケアマネさんのお手配を受けサロンデーにお世話になることが決まりました。椅子に座っての体操は号令に合わせてついていけますが、歩行訓練になると一歩が踏み出せません。指導員の方が左右に付き添って下さり私は両手を両脚の太股に強く押し当て「一・二」「一・二」の号令に促されて左足で強く床を蹴り歩き出しました。「酒井さん息を止めないで顎を引いて息をして息をして頑張り過ぎずに行けるところまでにしましょう。」何度かふらつきその度に体を支えて下さる感覚を有り難いと思う心がもう少し歩けると判断したその時でした。私の姿を見てらした皆さんが手拍子を打ち「一・二」「一・二」と掛け声を挙げて声援して下さったのです。

優しい心に応えて定距離の半分でしたが懸命に歩きました。訓練が終わりお茶会が始まりました。すると私と同じ程度の足の萎えた婦人が近づいてこられ、「今日は貴女から力を貰いました。有り難う。私も頑張ります。」と肩に手を当てにっこりと笑われました。今日という日が一日一生の忘れられない嬉しい一日となりました。帰りのバスの窓からゆったりとした気分で久しぶりの家並みを見ました。紫陽花が鮮やかに夕日に映えていました。

佳作

「素敵な笑顔」荻島 温子様

感動介護を行った職員

株式会社サロンデイ サロンデイ上鶴間 成田さん

私は数年前、要支援2に認定され、運動機能向上を目標にしたハーフデイ（三時間）・サービスに通っている。男女比はおおよそ半々、一グループ十六人。

そこへ、小柄でもの静かな男性が仲間入りされた。仮にA氏（83）としよう。送迎車が施設に着くと運転手さん達の手を借りて下車、その後スタッフが進行方向を背にA氏の両腕を下からしっかりと支えて席に誘導。

スタッフとの受け答えはかすかな声でされるが、仲間同士の会話は無い。うつむき加減で時に空ろな表情、又時には瞑想、感情表現は極めて乏しい。ここに入所前“寝たきり状態”の心配がおありだったとか、それを回避する為スタッフはその日の体調に合わせ体を動かす様に促されるのを目にしている。例えばエアロバイクのペダルから足が外れないように超巾広の粘着テープでペダルに足を固定したりという風に……

もうじき一年という或る日、一日のスケジュールが終り、お茶の時間に、仲間の一人が海外旅の面白い話をして皆の笑いを誘った。斜め前のA氏も顔をほころばせていられる。びっくり!!「素敵な笑顔」行儀よく並んだ白い歯が口もとからのぞき印象的。常日頃の少しずつの努力が実って私までが嬉しい。スタッフの方々も様々な場面ですでに気付かれお喜び一入と思う。それにも増してご家族のお喜びは如何ばかりか、胸がいっぱい。ご本人の努力は勿論のこと、スタッフ方の何気ない気配り、否心配りの賜ものと感動した。

佳作

「「よだれを拭いて」」遠田 千穂様

感動介護を行った職員　精神病院　臨床心理士

「妹のよだれを拭いてくれないかな?」

結婚式前の打合せで学生時代の友人の臨床心理士にお願いした言葉である。重い統合失調症を患っていた妹は薬の副作用で首が左傾しよだれが垂れ流しになっていた。あんなにハキハキニコニコ笑っていた妹がこんなことになるなんて･･･。ショックは隠せなかったが彼女は外出許可を取って私の結婚式に出ると言う。着付けの方にメークと着替えを施してもらう、その間も友人はずっと側にいて彼女のよだれを拭ってくれた。

その妹が今度は法政大学に尾木先生が来るので講義を聴きに行きたいと言う。主人に相談したところ快く車で送迎。講義中もよだれは止まらなかったが震える手でメモを取っていた。そんな彼女も無事に東京大学を卒業し就職活動中。よだれや震えは今も止まらないが多くの方々の介護のお陰で卒業式にも出席をすることが出来た。

精神疾患の闘病生活では本人も周囲も苦しむことがある。薬の副作用は強烈だ。しかし朗らかに当たり前の様に介護に携わって下さる方々のお陰で妹も私達家族も立ち直ることが出来た。あなたの笑顔は心までも護ってくれる。他人でも家族でもお互いに介護をすることは出来る。困った時はお互い様。私も明日鬱病を発症するかもしれないし事故で身体障がいになる可能性もある。障がいは他人事ではない。自分が障がいを負った時どうすれば生きやすい社会かどうあれば働きやすい職場かを常に意識していれば共に生きる社会神奈川構想が実現する。

第9回かながわ感動介護大賞
応募作品の総評

2020年1月ごろから始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、多くの悲しみを生み、多くの方々が困難な状況にありましたことから、2020年度は公募を見送りました。

2021年度の現在も感染拡大は続いておりますが、皆が大変なときだからこそ、心温まる人とひとのつながりのある介護現場のエピソードを少しでも多くの県民の皆さまにお伝えしたいという思いから公募いたしました。ご本人とご家族の方々から45作品、介護職員の方々から42作品、コロナ禍の中にもかかわらず、計87作品の応募がございました。

ご応募いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

87作品の中から最優秀賞に2作品、優秀賞に10作品が選ばれましたが、どの作品も甲乙つけがたく審査員も悩みながらの結果でございました。今回の応募作品は、コロナ禍の中で不自由な生活環境であっても、それぞれのお立場から「介護をとおして、お互いを思いやる心温まるエピソード」ばかりでございました。

ご本人やご家族の皆さまの作品では、当たり前だと思っていた生活や会いたいときに自由に会えることがどんなに幸せなことなのか、コロナ禍でも自分の大変さは見せず笑顔でかかわってくださる介護等の現場の皆さまへの感謝が綴られておりました。

介護現場の皆さまの作品では、コロナ禍での別れ、出会い、利用者の皆さまやご家族に十分なケアができないときのジレンマ、少しのケアでも喜んでいただける専門職としてのやりがい等が綴られておりました。

その一作品一作品が語る言葉は、「今まで気づかなかった幸せをお互いが改めて感じるほど重い」ものでございました。皆さまに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

かながわ感動介護大賞表彰選考会座長　大島憲子

神奈川福祉事業協会

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
合同会社Run
社会福祉法人松緑会 松みどりホーム
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
株式会社サロンデイ
社会福祉法人横浜長寿会 特別養護老人ホーム上郷苑
株式会社えひめ飲料東京工場
川崎市老人福祉施設事業協会
社会福祉法人八寿会
社会福祉法人昴
社会福祉法人大和清風会

社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会
社会福祉法人富士美

社会福祉法人
神奈川県社会福祉事業団

SAMUKAWA HOME
寒川ホーム
社会福祉法人　吉祥会　トラ吉くん

公益社団法人
横浜市福祉事業経営者会

A.I.Viewlife

社会福祉法人
神奈川県医済会

社会福祉法人光温会
社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会
社会福祉法人敬心会

株式会社アオバメディカル あおば福祉サービス
社会福祉法人湘南愛心会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
有限会社みどりケアサービス
社会福祉法人ハマノ愛生会
社会福祉法人永寿会 特別養護老人ホームかりん
社会福祉法人竹生会
社会福祉法人湘南福祉協会
社会福祉法人厚木慈光会
社会福祉法人二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野
株式会社いわしや西方医科器械
社会福祉法人東京武尊会 ボーナビール二本松ケアセンター
株式会社ケアバンク
特定非営利活動法人愛コープ
社会福祉法人藤心会 特別養護老人ホームふじの郷

※協賛団体一覧及びロゴは、各協賛団体の希望する方法で掲載しています。ーご協賛いただきありがとうございますー

随時受付中!

かながわ感動介護大賞

感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを

伝えてみませんか!

職員の方や感動的な場面を

直接見聞きした方の「感動」介護の

エピソードも募集しています。

ご応募お待ちしております。

※詳しくは、県ホームページ
「かながわ感動介護大賞エピソード募集」を
ご覧ください。

※インターネットからも応募できます。

神奈川県

かながわ感動介護大賞実行委員会

福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

〒231-8588横浜市中区日本大通1　TEL.045-210-4835（直通）

ともに生きる社会
かながわ憲章
KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

instagram ID：かながわ憲章【公式】

かながわ憲章　検索

受賞作品の
ドキュメンタリー動画を
Webで公開しています

神奈川県
「認知症の人と
家族を支えるマーク」